

洛和会音羽病院

地域連携ニユース

2

〒607-8062 京都市山科区音羽珍事町2 TEL 075 (593) 4111(代) <https://rakuwa-otowa.jp/>

2025 February

京都下肢創傷センター

より早く～傷ができる前に～
より速く～専門チームによる対応で重症化を防ぐ～

糖尿病や慢性腎不全（血液透析）の患者さんは、足に創が生じると重症化しやすいことが知られています。これには、創が生じる前に下肢虚血や神経障害が進行し、巻き爪、鶏眼の深部にある感染巣が発見されにくいことなどが背景にあります。リスクの高い患者さんに対しては創が生じる前に専門チームが介入します。爪や鶏眼の処置を積極的に行い、隠された早期病変にアプローチするという「攻めのフットケア」や、早めの血行再建を検討します。経験した代表的な3症例を紹介します。

（裏面にて）



京都下肢創傷センター

火曜日・水曜日 **松原 邦彦**

他の曜日もコアメンバーが対応します

月曜日・金曜日

形成外科 **竹川 政裕**※
 兼務

木曜日

心臓内科 **柳内 隆**※
 兼務

※ 洛和会音羽病院 外来

心臓内科 医長 兼務
 やなぎ うち たかし
柳内 隆



専門分野 心血管インターベンション、急性期医療

専門医認定資格など 日本内科学会認定内科医
 日本心血管インターベンション治療学会専門医
 日本循環器学会認定循環器専門医
 日本フットケア・足病医学会認定師
 日本脈管学会認定脈管専門医
 浅大腿動脈ステントグラフト実施医

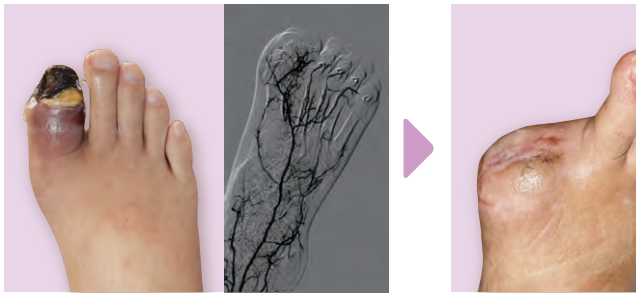
▶ Check!

詳しくはこちらから
 ご覧ください



Case 1 61歳男性、糖尿病、血液透析

巻き爪の痛みと考えられていたが、爪切りにて骨に達する瘻孔^{ろうこう}を確認しました。MRIにて末節骨骨髄炎が判明し、血行再建+末節骨除去にて治癒しました。このように、病変が「発見」されないために治療開始が遅れる症例を多数経験します。リスクの高い患者さんの巻き爪や鶏眼の処置は難しく、熟練者による対応が必要です。



Case 2 57歳男性、糖尿病、血液透析

軽微な切創から壊疽^{えそ}に進行。炎症反応高値、下腿動脈の血流低下があり、緊急カテーテル血行再建後に母趾を切断し、開放創にて管理しました。抗菌薬の最適化、血糖コントロール、陰圧閉鎖療法などを行い、2カ月で治癒しました。このような緊急性を要する症例は命の危険にさらされることも多く、治療に時間をかけるほど合併症やADL低下等のリスクが高くなります。「速く」治すための集学的治療が求められます。

Case 3 89歳女性、血液透析

もともと足趾の疼痛があり、下腿動脈の狭窄(ABI 0.52, SPP 20mmHg)を指摘されておりました。創がなく歩行不可であったため経過観察していたところ、左母趾に壊死性痂皮を生じたため、血行再建後にレオカーナを開始し、半年ほどで治癒しました。このような再狭窄のリスクが高い症例に対して、専門チームによる頻回の関わりと治療後に紹介元にお帰りいただいてレオカーナを継続する、という病診連携を進めています。



洛和会音羽記念病院
京都下肢創傷センター 部長
まつばら くにひこ
松原 邦彦



専門分野 下肢を中心とする慢性創傷
専門医認定資格など 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
臨床研修指導医



京都下肢創傷センターでは、「早く」対応を始めるために洛和会音羽記念病院の透析送迎サービスを活用し気軽に検査・診察を受けていただける体制を整えました。足の色が悪い、爪が痛いなどの軽微な所見のうちに積極的に関わります。「速く」治癒に導くためのチーム医療を始めてから10年が経過し、さらに「早く」対応するために、私たちは歩みを進めてまいります。

洛和会音羽病院 地域連携課

業務時間 月～金曜日：午前8時30分～午後8時
土曜日：午前8時30分～午後5時15分

連絡先 地域連携課直通
TEL 075(593)7725
FAX 075(593)4160
E-mail otowa@rakuwa.or.jp

ご意見・ご質問・ご要望などございましたらご連絡ください。

医療機関予約専用フリーダイヤル **0120(607)489**